

「保活」の実態に関する調査の結果

この調査は、「待機児童解消に向けて緊急に対応する施策について」(平成28年3月28日)に基づき、平成28年4月11日から開始した「『保活』の実態に関する調査」です。

今回の集計は、4月30日までの回答分

この調査に先立って行った「『保活』についてのご意見」、「保育制度全般の改善についてのご意見」の募集結果についても、あわせてご覧ください。

厚生労働省 雇用均等・児童家庭局 保育課

目次

- 調査結果の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2
- 回答者の属性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3
- 「保活」を開始した時期・・・・・・・・・・・・・・・・ P 4
- 対象となる子ども・兄弟姉妹の状況・・・・・・・・ P 5
- 「保活」の結果・・・・・・・・・・・・・・・・ P 6 ~ 7
- 「保活」による苦労・負担・・・・・・・・ P 8 ~ 12
- 保育施設を利用できなかった場合の対応・・・・・・・・ P 13 ~ 14
- 認可保育園等への入園の優先順位について感じていること・・・・ P 15
- 「保活」についてのご意見・・・・・・・・ P 16 ~ 17

調査結果の概要

- 調査の目的

いわゆる「保活」（子どもを認可保育園等に入れるために保護者が行う活動）について実態を把握し、待機児童の解消や今後の保育の施策の検討に活用する。

- 調査実施時期

平成28年4月11日(月)から平成28年5月31日(火)まで

- 調査対象

政令指定都市及び平成27年4月1日現在で待機児童が50人以上いる市区町村において、平成28年4月からの認可保育園等の利用開始に向けて保活を行った保護者の方。

- 調査方法

市区町村等を経由して保活を行った保護者の方(保育施設の利用者等)に周知を行い、厚生労働省ホームページにおいてアンケート調査を実施。

- 有効回答数

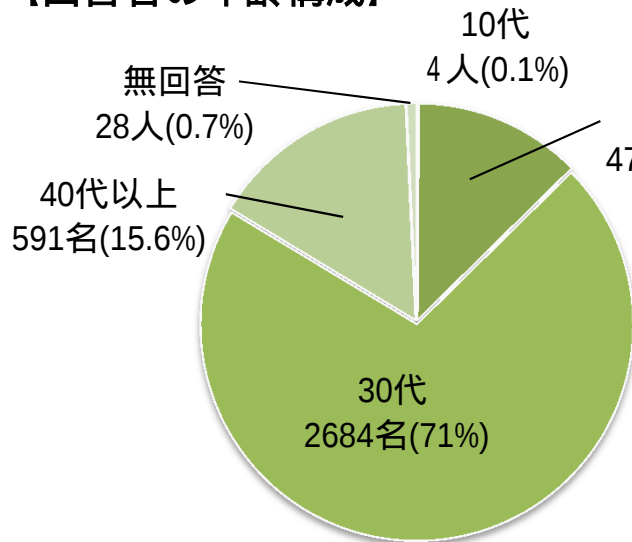
3,781件[平成28年4月11日(月)(調査開始日)～4月30日(土)の回答数]

回答者の属性

有効回答数(n) = 3,781人

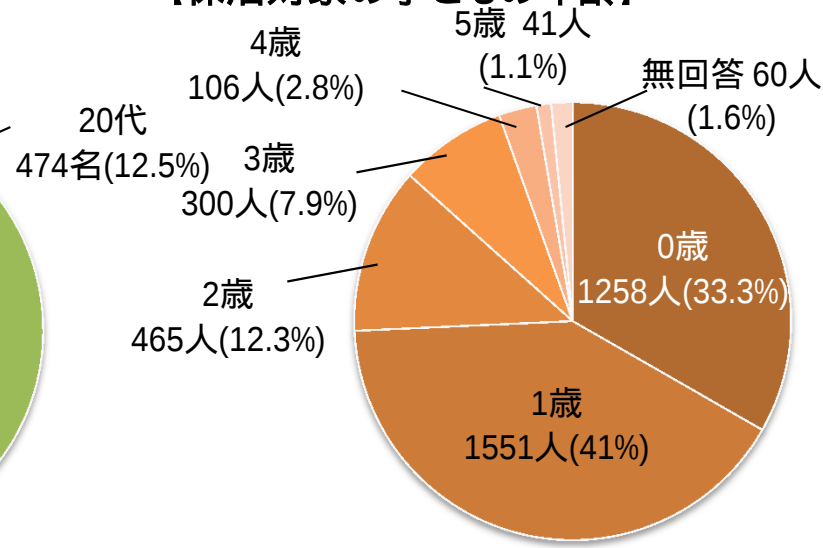
【回答者の性別】 男性:303名(8.0%), 女性:3,458名(91.5%), 無回答:20名(0.5%) (平成28年4月1日時点)

【回答者の年齢構成】



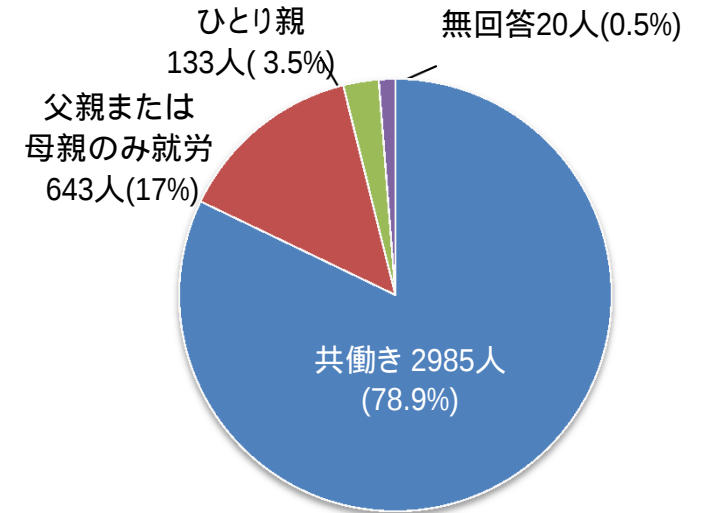
10代	4人	(0.1%)
20代	474人	(12.5%)
30代	2684人	(71.0%)
40代以上	591人	(15.6%)
無回答	28人	(0.7%)

【保活対象の子どもの年齢】



0歳	1258人	(33.3%)
1歳	1551人	(41.0%)
2歳	465人	(12.3%)
3歳	300人	(7.9%)
4歳	106人	(2.8%)
5歳	41人	(1.1%)
無回答	60人	(1.6%)

【回答者の家族の就労状況】



共働き	2985人	(78.9%)
父親または母親のみ就労	643人	(17.0%)
ひとり親	133人	(3.5%)
無回答	20人	(0.5%)

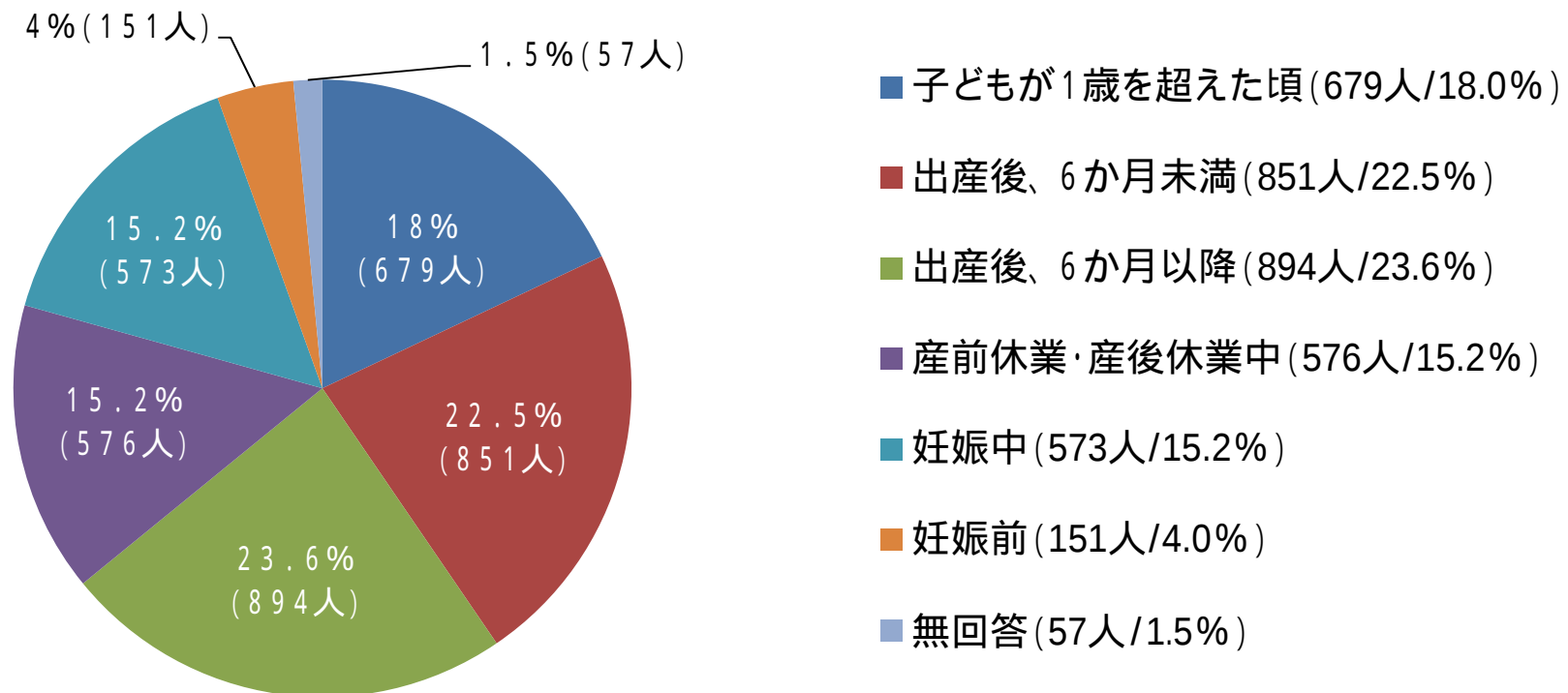
【都道府県別回答数(上位5都府県)】

○東京都 1,161件(30.7%) ○大阪府 475件(12.6%) ○神奈川県 386件(10.2%) ○埼玉県 281件(7.4%) ○福岡県248件(6.6%)

ー1 「保活」を開始した時期

- 「保活」を開始した時期は、出産後6か月以降とした人が894人(23.6%)と最も多く、次いで、出産後6か月未満の人が851人(22.5%)と多い。
- また、妊娠中・妊娠前に「保活」を開始した人も、それぞれ一定数存在。(妊娠中573人(15.2%)、妊娠前151人(4.0%))

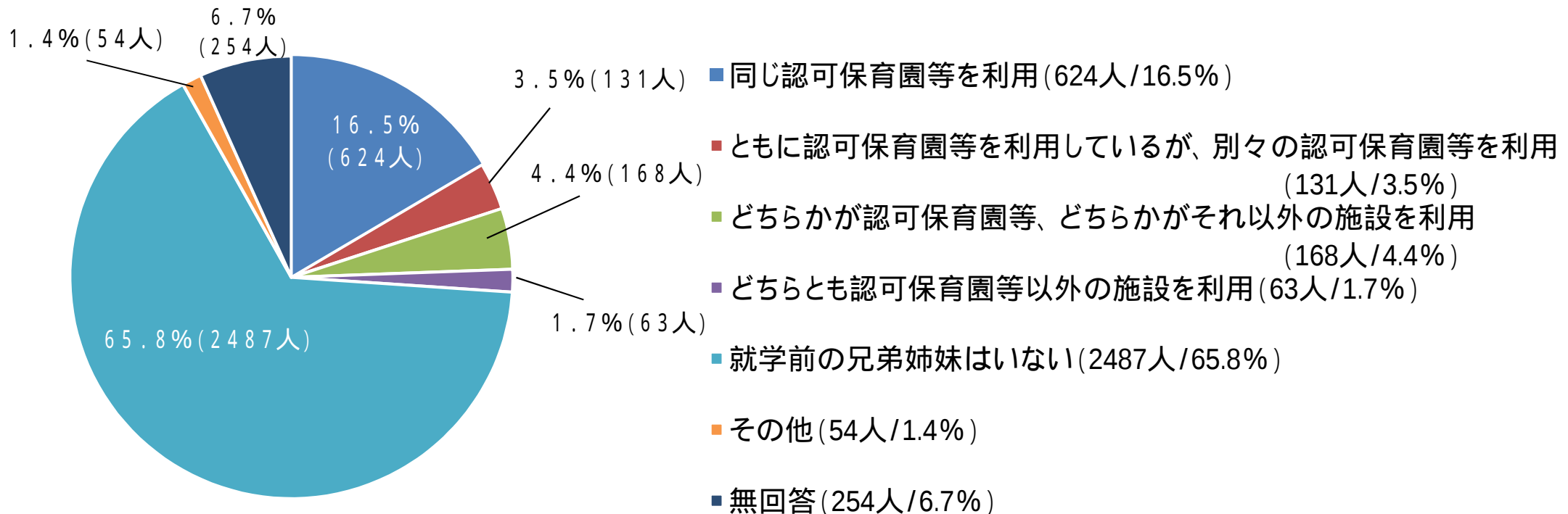
【設問】 「保活」を開始した時期について当てはまる項目をお選びください。(n = 3781人)



－ 2 対象となる子ども・兄弟姉妹の状況

- 「保活」の対象となった子どもに就学前の兄弟姉妹がいる家庭について、「同じ認可保育園等を利用する」家庭が624人(16.5%)と最も多い。

【設問】 「保活」の対象となった子どもと、その兄弟姉妹の状況について当てはまる項目をお選びください。(n = 3781人)

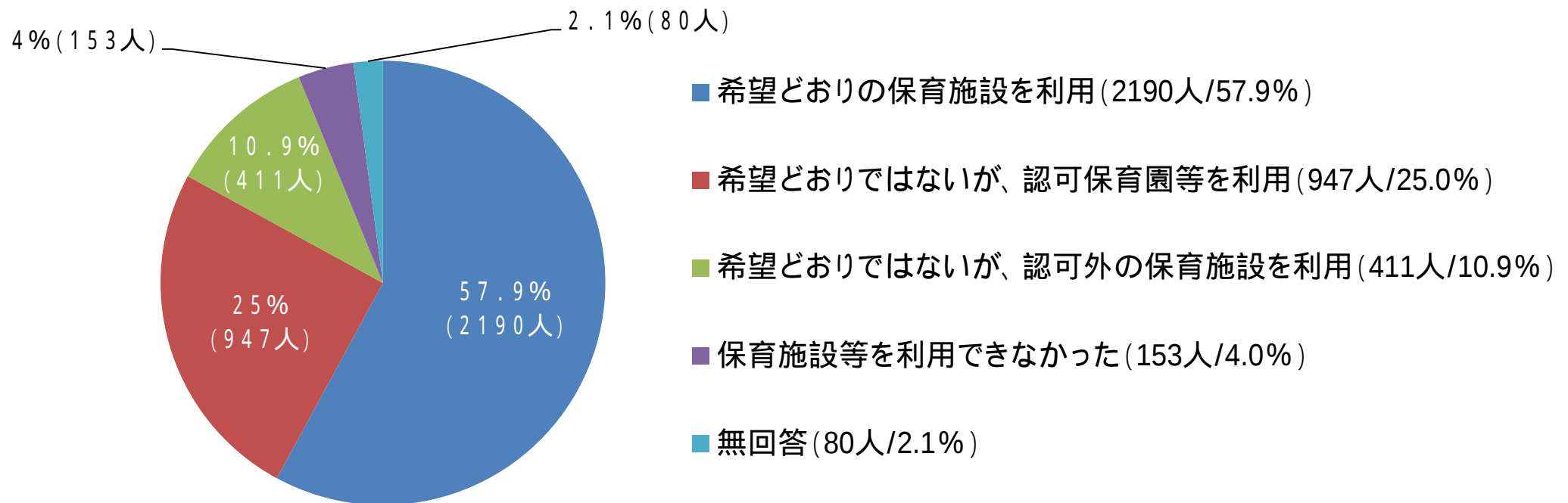


- 1 「保活」の結果（施設の利用状況）

- 「保活」の結果、希望どおりの保育施設を利用できた人は全体の57.9% (2190人)
- 希望どおりでないが、認可保育園等を利用できた人は25% (947人)、認可外の保育施設を利用できた人は10.9% (411人)で、あわせて35.9% (1358人)
- 保育施設等を利用できなかった人は全体の4% (153人)。

希望どおりの保育施設を利用できた人(2190人)のうち、2109人(96%)が認可保育園等を利用

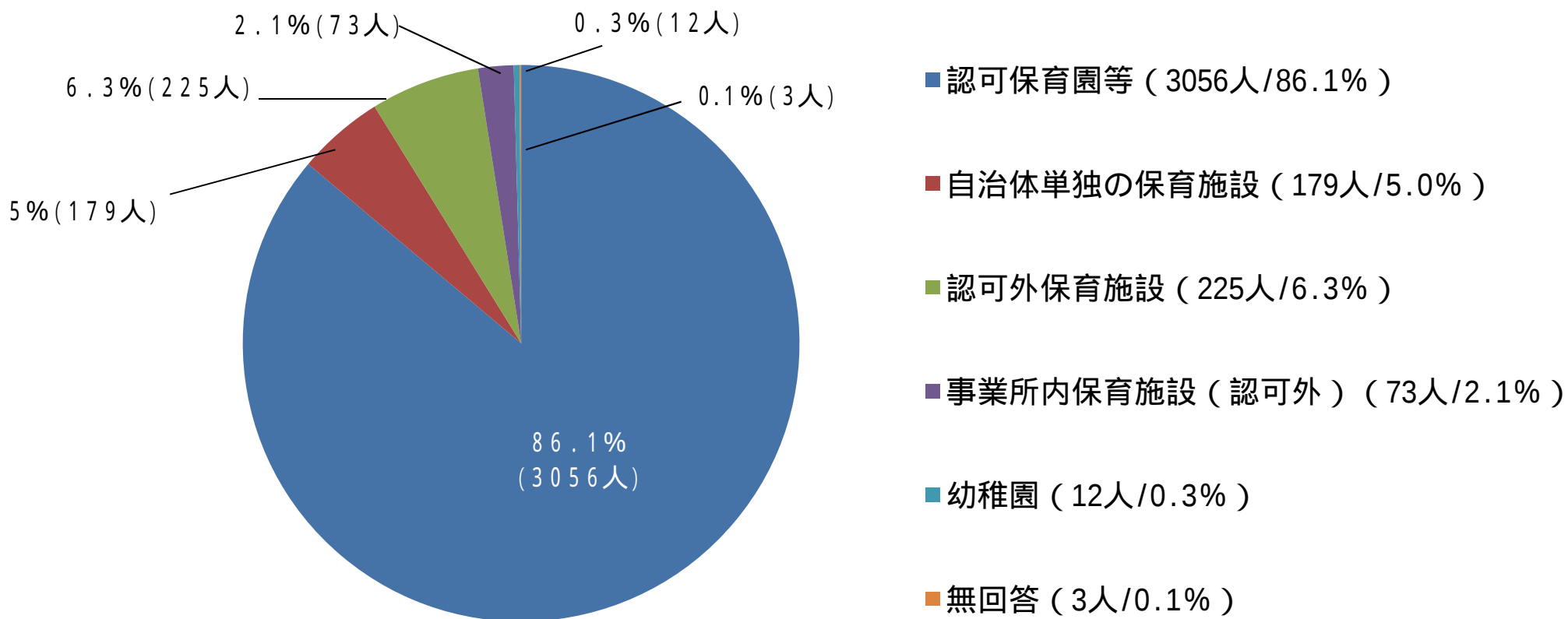
【設問】 「保活」の結果について当てはまる項目をお選びください。(n = 3781人)



— 2 「保活」の結果（利用できた施設の種類）

- 「保活」の結果、保育施設を利用することができた人（3548人）のうち、86.1%（3056人）は認可保育園等に入所している。

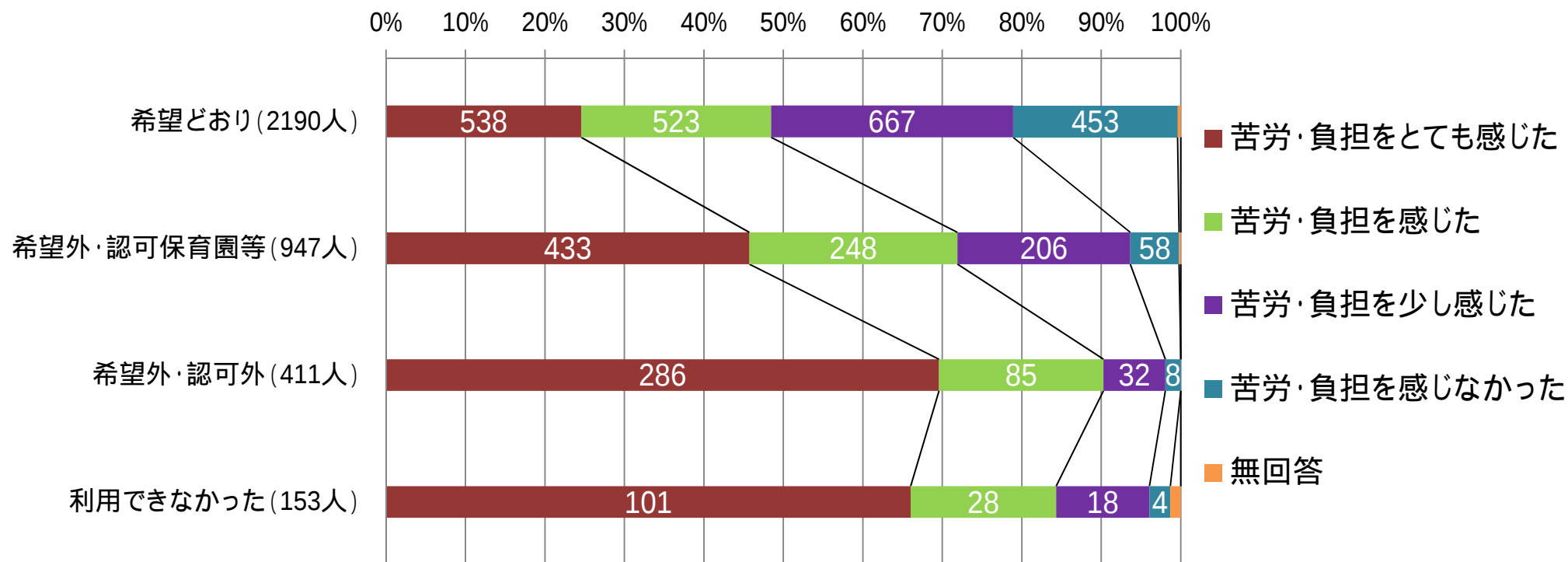
【設問】 利用することができた保育施設などについて当てはまる項目をお選びください。
（ n = 3548人）



- 1 「保活」による苦労・負担（苦労・負担の程度）

- 希望どおりの保育施設を利用できた人も含め、多くの人が「保活」に対して苦労・負担を感じているが、保育施設を利用できなかった人、希望以外の保育施設を利用することとなった人は、より多くの苦労・負担を感じている。

【設問】 「保活」をして苦労や負担を感じたことについて当てはまる項目をお選びください。
(n = 3781人)

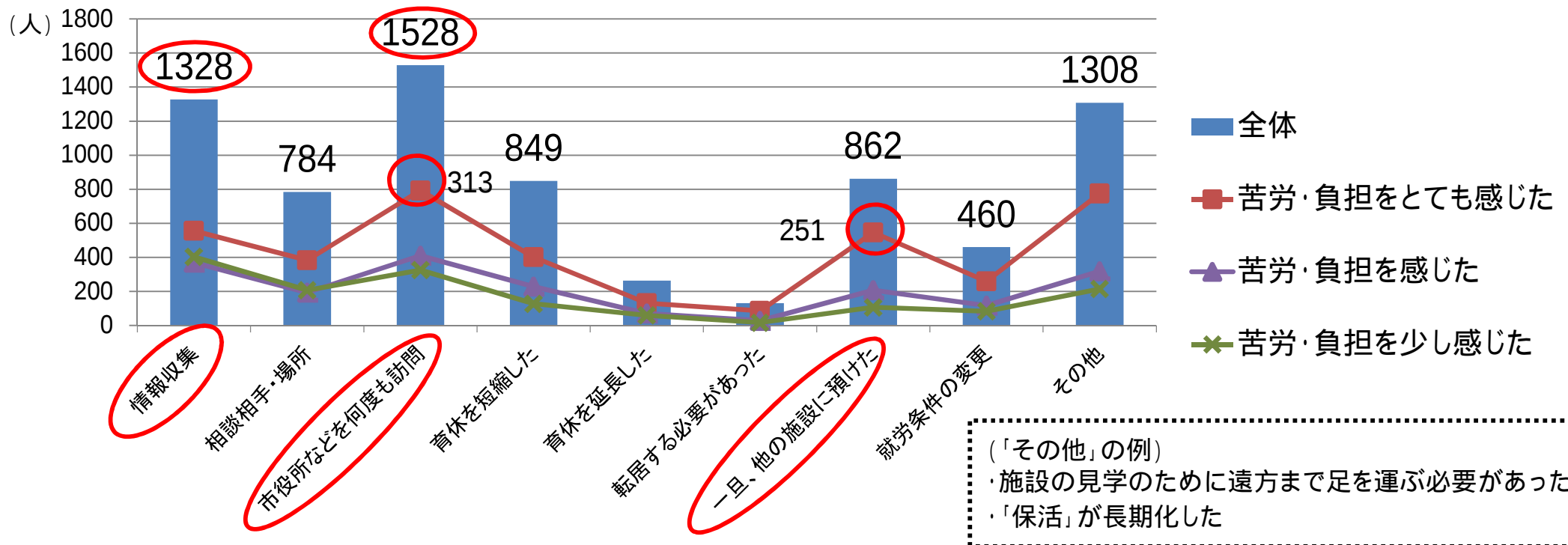


- 2 「保活」による苦労・負担（苦労・負担の内容）

- 「保活」で保護者が苦労や負担を感じた点については、全体では「市役所などに何度も足を運ばなければならなかった」との回答が1528人と最も多く、「情報の収集方法が分からなかった」も1328人が多い。
- 苦労や負担を感じた度合別に見ると、「とても感じた」保護者では、「市役所などに何度も足を運ばなければならなかった(313人)」、「いったん、認可外保育施設、自治体単独の保育施設などに預ける必要があった(251人)」との回答が多い。

（自由回答は、P10参照）

【設問】 どのような点に苦労や負担を感じたかについて当てはまる項目をお選びください。
（複数選択可 / n = 3224人）



ー 3 「保活」による苦労・負担（苦労・負担の内容：自由回答）

【自由回答】「保活」で負担に感じたこと

「保育園探し」に伴う回答

- ・ 保育園見学や区役所での申し込みのため、産後直後の体力が回復していない時期から、授乳などが必要な乳幼児を連れて、何度も外出しなければならないこと。
- ・ 育児に加えて、情報収集や多くの保育所への見学申し込みをしなければならないこと。
- ・ 入園自体が難しいので、保育方針や保育の質で施設を選ぶ余裕がないこと。
- ・ 子どもが無事に生まれる前から、保育園に入れるか心配して情報収集や見学をしなければならないこと。

「職場、仕事との関係」に関する回答

- ・ 本当に仕事に復帰できるか分からないという不安があること。
- ・ 保育園に入れなければ職を失ってしまう不安があること。
- ・ 仕事をしなければ保育園に入れず、保育園に入れなければ仕事に就けないという状況で板挟みにあうこと。
- ・ 入園できるか直前まで分からないため、会社と職場復帰に向けての具体的な調整ができず、人員配置等で迷惑をかけること。

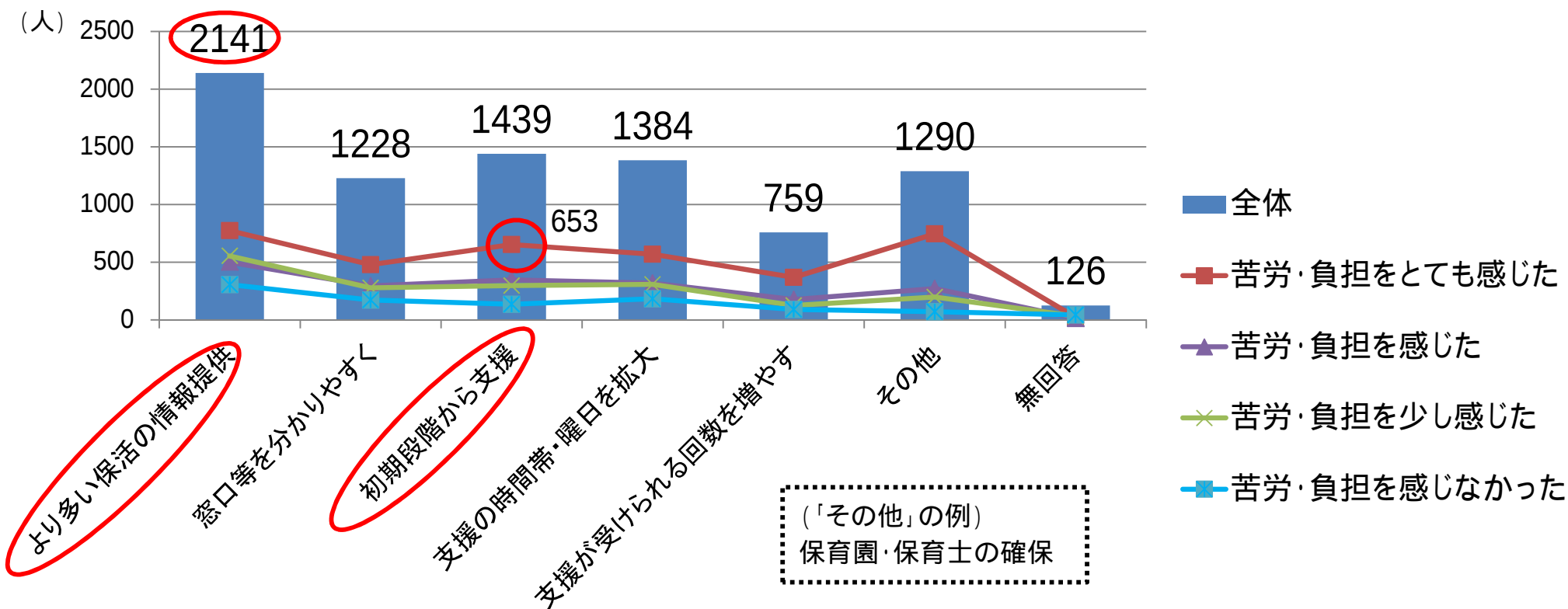
「入園時期」などに関する回答

- ・ 保育園の情報収集や見学などの努力を重ねても、4月に入園できないとどこにも入れない可能性があること。
- ・ 保育園に入りやすくするために、会社が認めている育児休業期間や自分が希望している育児休業期間を短縮しなければならないこと。
- ・ 子どもがいつ生まれても、行政の日程である4月入園を前提に入園や職場復帰を考えなければならないこと。
- ・ 早生まれだと保育園に入りにくく、生まれ月によって差があること。

- 「保活」に対する苦労や負担感を減らすために市区町村において必要な支援については、全体及び苦労や負担を感じた度合別のいずれも、「保活に関する情報をより多く提供する」との回答が最も多い。
- 苦労や負担を「とても感じた」保護者については、「初期の段階から支援をする」との回答も653人と多い。

（自由回答は、P12 参照）

【設問】 「保活」に対する苦労や負担感を減らすために市区町村においてどのような支援が必要だと思うかについて当てはまる項目をお選びください。（複数選択可 / n = 3781人）



【自由回答】 「保活」の苦労や負担を減らすために市区町村において必要な支援

「より多い保活の情報提供を」 との回答

- ・ 保活経験者、地元の人間などが圧倒的にリアルな情報を持っている印象を強く受けたので、せめて自治体からは詳しい情報やアドバイスをどんな立場の人でも得られる仕組みを作してほしい。
- ・ インターネット社会で情報が錯綜(さくそう)する中、きちんと情報収集できるかが肝であり、保活専用サイトを設置し、自治体発のわかりやすい情報提供が必要。
- ・ 仕事を持っている身としては、出来るだけ自治体に出向く回数は減らしたいので、「保活」に必要な情報について分かりやすいホームページを作してほしい。
- ・ 子どもや家庭の方針に合う保育施設を選ぶために、保育施設の特徴や雰囲気などを把握できるようにしてほしい。
- ・ 施設の案内の情報といった保育園に入ってからの情報だけでなく、特に認可外について、申し込み方法といった保育園に入る前の情報をもっと提供してほしい。
- ・ 自治体に地域外でも付近の認証保育所、認可外保育所の情報があるとよい。
- ・ 昨年度のボーダーラインが公表されていれば、自分に合う保育園を選べた。
- ・ 申請書類作成後に新たに追加になった保育園等は、保活している人全てに行き渡るよう徹底してほしい。

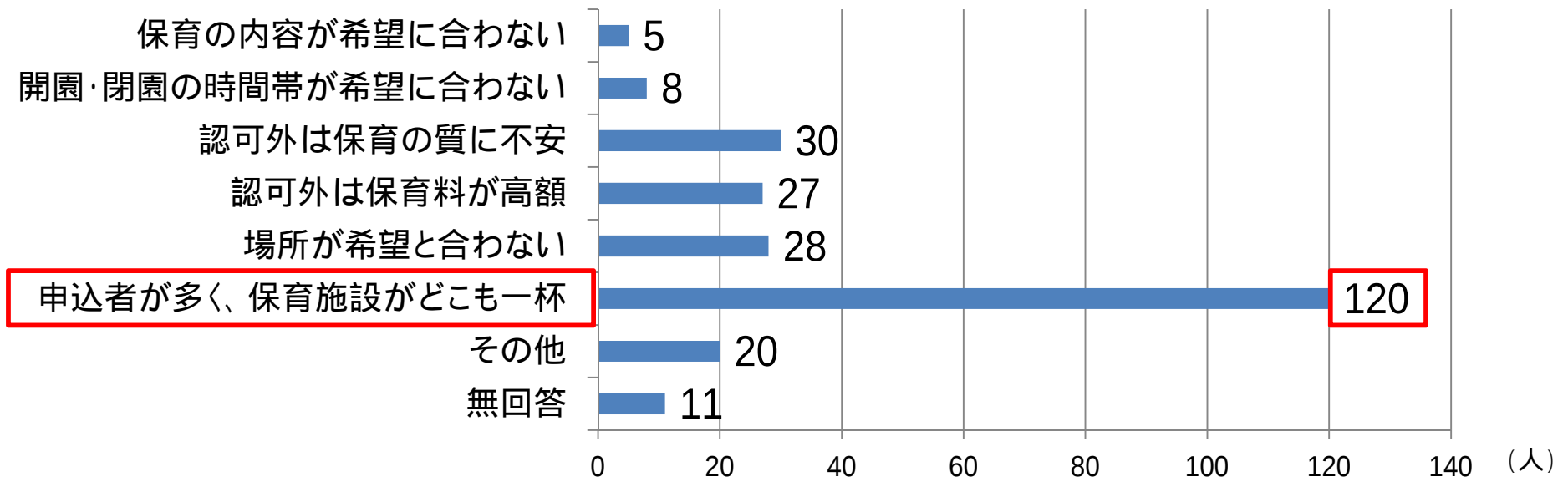
「初期段階から支援を」 との回答

- ・ 保育所の現状について、妊婦や妊娠を希望する人を対象に常に最新の情報（認可保育園は4月が最も入園の可能性が高い旨、保育所入園までの流れ等）を、講習やチラシの配布、ホームページでの公開等により提供してほしい。
- ・ 申請書類を受け取ってから調べ始め認可保育園に電話したのでは遅く、間に合わなかった。余裕をもって見学やリサーチができるよう、初期段階から情報がほしかった。

ー１ 保育施設を利用できなかった場合の対応（利用できなかった理由）

- 保育施設を利用することができなかった理由として、「申込者数が多く、どこの保育施設もいっぱいだった(120人)」との回答が特に多い。
- また、場所が希望に合わなかった(28人)、認可保育園等以外は保育料が高額(27人)、保育の質に不安がある(30人)との回答も一定数存在。

【設問】 どのような理由で子どもを預けられなかったかについて、当てはまる項目をお選びください。（複数選択可 / n = 153人）



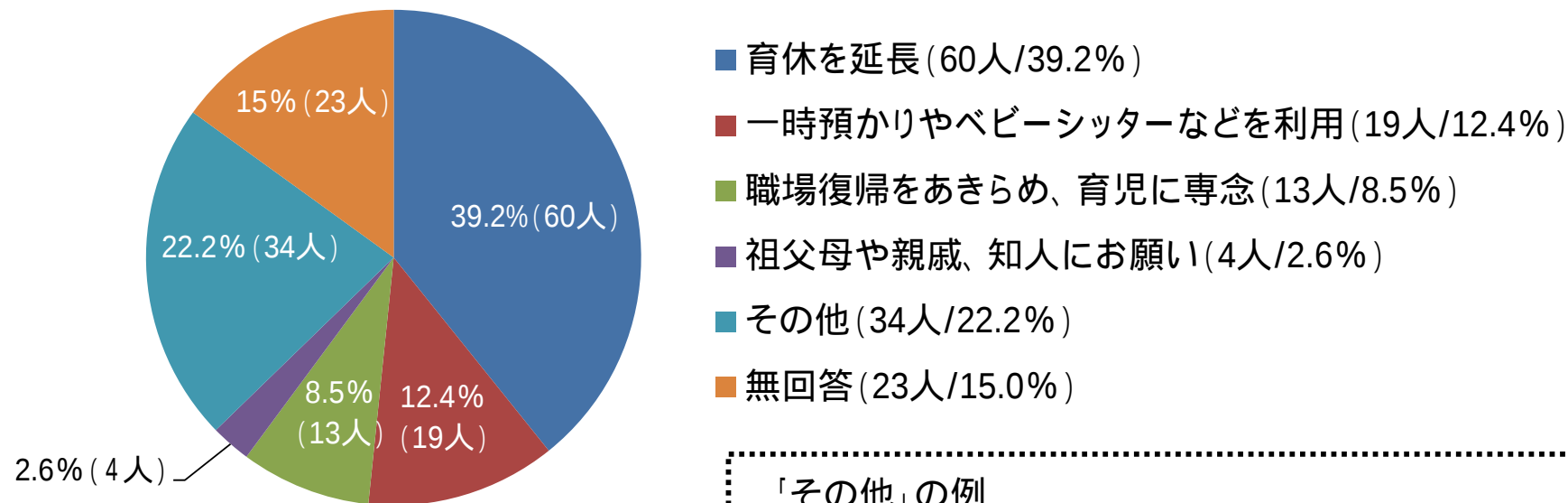
「その他」の例

- ・ 子どもが早生まれであり、月齢が低いため、4月入園の申し込みができなかった。
- ・ 急な転勤のため、申し込み期日に間に合わなかった。

ー 2 保育施設を利用できなかった場合の対応

- 保育施設を利用できなかった場合の対応として、「育休を延長」との回答が39.2%(60人)と最も多い。
- また、「一時預かりやベビーシッターなどを利用」(12.4%/19人)、「職場復帰をあきらめ、育児に専念」(8.5%/13人)との回答も多い。

【設問】 子どもを預けることができない場合、どのように対応したかについて当てはまる項目をお選びください。(n = 153人)



「その他」の例

- ・ 自営のため、勤務時間を調整して自宅で面倒を見ている。
- ・ 幼稚園を利用している。

認可保育園等への入園の優先順位について感じていること

【自由回答】 認可保育園等への入園の優先順位について感じていること

「公表してほしい」との回答

- ・ 同ポイント(かつ同等所得)でも認可園に入所できる家庭と入所できない家庭があり、選考過程が不透明である。
- ・ 本人のポイントと保育施設に入所するための目安ポイント(前年の入所者のポイント等)が分かれるとよい。

「決め方に疑問・改善してほしい」との回答

- ・ 現在のポイント制には概ね納得しているが、さらに、仕事が忙しい人、時短勤務が取れない人が一時保育で使える等、認可保育施設を柔軟に使えるような方法を模索してほしい。
- ・ 住民税の納税額による認可保育園の入園決定の仕組みを見直してほしい。税金の貢献度の高い家庭も入園できるよう枠を残してほしい。
- ・ 生まれ月により入園の有利・不利が生じないようにしてほしい。早生まれの入園枠を別に設ける必要がある。
- ・ 自分の住んでいる地区は、認可外に預けても加点がなく、自分の努力(高い認可外の保育料を払って遠い保育所に通わせている点)が反映されない。ポイント制は全国共通条件にできないのか。
- ・ 自宅を職場にしていることがマイナスポイントになることについて、改善を望む。
- ・ 出産は、働き方によらず女性にとって同じであるという観点から、産休以降の自営業者の育休も認めるべきであり、就労時間数が少なくても仕事を再開していれば、休業中ではないと認めるべきである。

【自由回答】「保活」についてのご意見

- ・ 「保活」などという言葉が必要ないように、保育施設の数や質を充実させてほしい。
- ・ 小規模保育施設からの卒園児の受け皿が不足しているので、きちんと確保してほしい。
- ・ 1,2歳の入れる保育所を増やしてほしい。認可や認証の保育所に入れず金銭的負担が大きい。
- ・ 利用者が多い地域はどうしても競争が生じるが、その理由として、急激なマンション建設ラッシュなどの要因がある場合は、保育園や学校などをしっかりと整備してほしい。
- ・ 保育所の数、保育士の人数の問題もあるので、全員を認可保育園に通わせることは難しいと思う。全員を認可保育園に入れるのではなく、それ以外の施設に預けている家庭の負担を緩和してほしい。
- ・ 保育士を確保して、現在の保育園の質を低下させることなく、保育園の数を増やすことを優先してほしい。
- ・ 保育園の見学に各々が行くのではなく、市区町村で日程などを決めて申し込みなどをしてほしい。

ー 2 「保活」についてのご意見（男性からの意見）

【自由回答】「保活」についてのご意見（男性からの意見）

- ・ HP等を充実させて、保育所の理念、教育等が分かるようにするなど、バーチャルでよいので、施設を見学できる体制を整えるだけで負担は大きく変わると考える。
- ・ 保育園の空き状況や年齢別枠、採点基準が実際の申し込みに行くまで分からなかったので、できれば市役所のホームページで公開してもらえると助かる。
- ・ 学校と同様に学区で決められた場所に通うことはできないか。希望制のため人気の園には集中し、結果として不満が大きくなる。
- ・ 保育園のあるべき姿は以下のようなことかと思う。
 - 小中学校のように全員が入学・入園を許可されること。
 - 生まれた月によっても条件が異なるので、各自が時期を自由に選べること。
 - 子どもの送り迎えが必要なため、親の職場等を考慮し、多少の園の選択権があること。
- ・ 今回、十数件保育園を見学したが、男性一人で見学されている方には一度も出会わなかった。男性の参加が少ないと、企業社会・働き方への理解が深まり難いため、見学会を設定する場合、男性のみの回を設けるなどして男性の参加の寄与度を高められたらよい。